

伊藤ひろし県議会報告

～災害対応におけるヘリコプター
臨時離発着場適地の拡充を～

『ヘリコプターの活動事例』

先月、大分県大分市の大規模火災における消火活動や能登半島地震による道路寸断における自衛隊機での人命救助・支援物資の輸送など、災害対応には欠かせない活動が期待されています。



【消防活動】 大規模住宅火災・山林火災

【交通輸送】 救助・救援物資の輸送

【救急医療】 迅速な重篤患者の医療処置

【情報収集】 災害時の被害状況の把握

【治安維持】 逃走車両追尾、上空警備など

『問題提起（臨時離発着場の適地）』

千葉県は、都市部から沿岸部、山間部まで多様な地形を有しています。火災、浸水、液状化など、現状の適地が使えない可能性もあります。平時から、より多くの場所を把握し、災害時に速やかに利活用できる体制を整えておく必要があると考えます。

※現在、学校、公園など495箇所の公共施設

【お伝えしたいこと】

県立高等学校、道の駅、大規模商業施設の駐車場、物流拠点など、県有施設や民間施設も含めて候補地を検討し、適地の拡充に取り組むよう、十二月県議会の一般質問で要望しました。